

人物風土記

題字は
福田紀彦市長

○：地域で地球温暖化対策を推進する「CCあさお」の代表を2012年から務める。7月末には夏休みの自由研究講座として恩廻公園調節池の見学会を開催。「子どものうちに環境のことを学び、10年後、20年後に『あの頃勉強したな』と振り返ってもらい将来のプラスになれば」と次世代の環境意識に目を向ける。

○：東京の牛込生まれ。中高はバレーボール部で、学生時代は「副リーダーになって補佐したり、人についていく」タイプ。大学卒業後はIT関係のプログラマーとして定年

けに、麻生区内で10年以上、環境問題の啓発に取り組んでいる。

○：麻生区には新百合ヶ丘駅ができる前から住む。引越してきたばかりの40年以上前、新しく駅ができるという噂に「周りは山ばかりで、本当にできるの?」と思った。

と笑う。写真や合唱などの地域団体にも所属し、活動しない日はないほどアクティブな日々を送る。地元の飲み仲間もでき、役のときは近所で飲むことが恥ずかしくなかったのに、今じゃ「飲むよよ」って人を集めている。その話す表情は楽しい。

定年後地域の仲間と共に



●7月に恩廻公園調節池の見学会を行う「CCあさお」代表の

辻村 一男さん

王禅寺西在住 77歳

○：CCあさおには倉エネ、ごみ問題、エコクッキングなど多方面で環境問題に対して活躍するメンバーが集まる。「いろいろな人と付き合いがあるおかげで、話題が複数になるのは嬉しい」。麻生区の特徴は緑豊かなところと思うだけに、住宅地が増えて緑が少なくなっていることに寂しさを感じる。今後は「緑の豊かさを上手く活動で引っ張り出していきたい」。